

概要報告

実施期日	7月31日(金)
部会名	中学校 国語部会

テーマ 『話すこと・聞くことの指導と評価の工夫』

提案概要

単元(題材) 「理想のロボット」 「中学生の国語三年」三省堂
学年 第3学年

この単元を、「話すこと・聞くこと」の学習として実践した提案である。単元の目標は、場の状況や相手の様子に応じて、説得力のある話し方ができることと、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の表現に生かすことができることである。「売上げ日本一のセールスマンになろう」という条件をつけることで、学習する生徒たちに身に付けさせたい力がつくのではないかと考え、「話すこと・聞くこと」の学習を行った。

①「発表の苦手意識を減らすこと」②「聞き手を見て話せるようになること」③「説得力のある話ができるようになること」の3つの課題に取り組むとともに、場の状況や相手の様子に応じて話ができるように、実践の中で身に付けさせたい力を意識させながら取り組みやすい手立てを考えた。①については、ただ与えられた題材でスピーチするよりも、役づけをして取り組むことで、発表してみたいと思わせるようにした。また、実際のテレビショッピングのCMを見て、話し方のイメージを膨らませて興味関心をもたせた。②については、聞いている相手が興味をもっているか、聞き手の様子に応じて話しているかに気をつけ、役になりきることで自然と聞き手を見て話せるように考えた。③については、具体的に話すことで説得力を高めていこうと考え、仕様書を作成する段階で、具体的な説明を考えさせた。また、仕様書に話す順番の欄を作り、どの順番で話せば、聞き手に伝わりやすいのかも考えさせた。

その他にも、話す相手を意識させるために、拡大投影機を使って絵を黒板に映し出したり、キャッチコピーを考えさせたりして発表準備を行った。発表では、話し手の評価をしながら聞き取ることを目標に、グループ発表練習(リハーサル)からクラス全体への個人発表の流れとした。

授業を終えてみて、1年生から段階をふまえ「話す・聞く」に取り組んできた成果が表れ、また、場面や話す相手の条件をつけることで一人ひとり役になりきることができ、発表に対する苦手意識を減らすことができた。そして、グループ活動でリハーサルを行い、何度も練習することで、説得力のある話ができたと感じた。

しかし、「話すこと・聞くこと」の活動における評価方法には、課題が残る。たとえば、グループごとに一斉に活動した場合、全ての活動を教師一人で見とるのはとても難しい。この場合、どのような評価方法が有効なのだろうか。また、生徒同士がグループでやりとりしたアドバイスや感想は、本番の発表に向けて大変参考になったと思われる。それを、自分の発表にどのくらい取り入れたか生かしたりできたかは、どのような方法で評価できるのか。ワークシートの工夫や評価について、今後も考えていきたい。今回は、スピーチ時に「内容・態度・話し方」の3項目で評価を行った。どのような評価方法が有効なのか。どのような方法で評価できるのか。みなさんの御意見を参考にしたい。

質疑概要

次の2点の質問が出た。

- ① 研究テーマについての質問。提案校の研究テーマ「豊かな心を育む言語活動」～生きる力の育成を目指して～と国語科との関連性について。「話すこと・聞くこと」の学習に苦手意識をもっている生徒が多い中、「話す力・聞く力」を高めるために、具体的に中学1年ではここを、中学2年ではここを目指している、という点を教えてほしい。
→豊かな心を育むためにはどうしたらよいか、国語科の中で話し合っている。1年時では、お互いの作品を見合う。原稿があってもよい。2年時では、お互いの作品をほめ合う。メモを作る。というようにステップアップを図っている。
- ② 評価について。「言語についての知識・理解・技能」の評価規準はあるか。学習指導要領との関連性について知りたい。
→研究を進めているところである。他校での実践について知りたい。教えていただきたい。

研究協議概要

研究協議の柱を2本立てた。

- ① 話すこと・聞くことの評価の工夫
- ② 「聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の表現に生かすこと」の評価

今回は、ワールドカフェの手法を取り入れて、研究協議を行った。1グループ5～6人の班を6グループ作り、話し合いを深めた。①では、出た意見を模造紙に書き込んでいった。②では、一人ひとりから出た意見が書かれた付箋を模造紙に貼り、小見出しを付けてまとめていった。最後に、他のグループを見合う時間を設けた。

① について。

- ・正確な評価とは、どのようなものか。評価の機会の均等性が求められる。
- ・評価は、生徒の力を伸ばすためと成績のためとに分けてしまいがちである。
- ・評価材料として、スピーチは公平にできる。しかし、アドバイスはどの時点で行えばよいか。
- ・ワークシートは、グループ活動の様子がわかる工夫されたものがよい。それをもとに、「話す」は難しいが、「聞く」は評価できるのではないか。
- ・班活動はどう見とるか。評価としては、関心・意欲・態度か。
- ・グループづくりも大切である。
- ・その場でないと感じられないことがある。スピーチにおいては、それを大切に評価していきたい。
- ・評価の仕方は、教師の意図とともに、最初に示す。
- ・学年によって自覚や言語獲得の能力が違う。3年生は面接で自分のことを話せるように。自分にとっての必要性がモチベーションを高めることにつながる。

などの意見が出された。

② について、

- ・相互評価をどう生かすか。
生徒相互で評価カードを使い、評価しあう。
- ・自己評価をどう生かすか。
活動や発表を通して学んだことや、それを自分の表現のどの部分にどのように生かしたか、生かそうとしたかを書かせる。
- ・今も悩む評価。
評価して、表現に生かすことは難しい。結局最後の作品での評価になる。
- ・ステップアップのために。
年度の終わりに、振り返りを書かせる。この1年の国語の学習で、どのような力がついたかを観点ごとに書かせる。

などの小見出しでまとめられた。

まとめ概要

発表提案者、指導助言者、部会総括者の方々の話に共通することは、ことばを大切にし、そのことばの力を生徒たちにどう付けさせるかという点で、国語科の担う重責は大きいということである。だからこそ、生徒たちに学習の見通しをもたせ、意欲をもたせ、生徒たちが行いたくなるような授業づくりをしていくことや、生徒の状況を把握し、主体となって学ぶ姿勢を育てることが大切である。

評価については、まだまだ研究が深められている過程である。今後も研究研磨を継続し、発展させ、それをいろいろな場で協議していくことが大切である。

今日の場で学んだことを各学校に戻って、広めてほしい。